

平成20年

秋の叙勲・褒章

茨城消防



10・11月号

発行所 水戸市千波町1918番地 次城県総合福祉会館内 財団法人茨城県消防協会 編集発行人 大塚 光 印刷所 富士オフセット印刷株式会社 (1部 15円)

平成二十年秋の叙勲・褒章受章者が十月二日に総務省から発令されました。本県からは、秋の叙勲が十一名、危険業務従事者叙勲が十四名、藍綬褒章が二名、合計二十七名の皆様を受章の榮に浴せられました。

伝達式は、秋の叙勲が十一月六日(ニッショーホール)、危険業務従事者叙勲が十一月十四日(日本青年館)、秋の褒章が十一月十八日(ルポール廻町ホテル)、それぞれ実施され、同日の午後には、皇居内において拝謁も執り行われました。

受章者の皆様の本年にわたる「尽力とご功績」に対し、心からの感謝と敬意を表します。以下、順不同に受章者の略歴等をご紹介します。* (一) は発令日現在の年齢

秋の叙勲

瑞宝小綬章

- 常世田 好晴(七十二) 元鹿島南部消防本部 消防正監 三十二年 千葉県銚子市八木町在住
- 瑞宝双光章
- 猪瀬 正男(八十二) 元北浦消防団 団長 消防歴 三十七年 行方市次木在住
- 弓野 政一(七十二) 元十王町消防団 団長 消防歴 五十二年 日立市土町在住

瑞宝単光章

- 奥井 昌夫(六十九) 元茨城町消防団 分団長 消防歴 四十年 東茨城郡茨城町小幡在住
- 小貫 一雄(七十三) 元ひたちなか市消防団 分団長 消防歴 四十二年 日立市土町在住

瑞宝双光章

- 小澤 勇(八十一) 元常陸太田市消防団 分団長 消防歴 三十九年 常陸太田市市野原在住
- 堀入 得夫(七十五) 元鹿嶋市消防団 副団長 消防歴 三十八年 鹿嶋市宮中在住
- 山田 仙市(八十一) 元小川町消防団 分団長 消防歴 三十八年 鹿嶋市宮中在住

危険業務従事者叙勲

- 大関 清(六十七) 元水戸市消防司令長 消防歴 四十二年 水戸市松が丘在住
- 大山 正行(七十四) 元ひたちなか市消防司令長 消防歴 三十八年 日立市南高野町在住
- 鈴木 隆(六十七) 元稲敷広域 消防司令長 消防歴 三十九年 龍ヶ崎市在住

瑞宝双光章

- 川崎 四郎(七十五) 元日立市消防監 消防歴 四十二年 日立市留町在住
- 川崎 忠志(六十八) 元ひたちなか市消防司令長 消防歴 四十年 日立市南高野町在住
- 合野 誠一(六十七) 元新治広域 消防監 消防歴 四十年 石岡市下林在住
- 櫻井 勉(六十八) 元稲敷広域 消防司令長 消防歴 三十八年

「水書に学ぶ」

平成二十年度 理事研修会(九州地方)

今年度の理事研修会は、災害対応で最も頻度の高い「水書に学ぶ」として、十月二十九日(三十日)にかけて水書の習習地である鹿兒島県と宮崎県を協会の理事等二十七名の関係者が視察しました。鹿兒島県では、薩摩川内市消防局において平成十八年七月鹿兒島県北部豪雨に付る被害と消防団の活動状況についてと題して資料やスライドに基づき説明を受けました。この水書は、薩摩川内市が平成十六年に一市四町村が合併してはじめて体験する

水書であり、また昭和五十一年以来三十年ぶりの大水害であったことから、今回の現場対応を後生に残すため、全消防職団員に意見を募り冊子に残すこととした、とのことでした。特に危険が迫りくる中で、避難勧告や避難指示が出て、これに応じようという住民対策については、大いに参考になったようです。宮崎県では、西臼杵郡日之影町役場において「平成十七年台風十四号における被害と消防団の活動状況について」と題して、説明を受けました。この水書は、災害対策本部

藍綬褒章

- 澤畑 浩行(六十二) 現ひたちなか市消防団 団長 消防歴 三十二年 日立市南高野町在住
- 齋藤 真春(六十二) 現五鹿町消防団 団長 消防歴 三十八年 五鹿町大字元栗橋在住
- 村田 秀男(七十八) 元鹿島南部 消防司令長



日之影町役場で説明を聞く消防協会理事

である役場の一階部分が水没する等の、過去に類を見ない大水害であり、隣接する高千穂町では四名の犠牲者が発生していたにもかかわらず、死者傷者が発生しなかったのは、消防団が日頃から地道な活動を積み重ね、地域と一体となった避難態勢を築き、早期に避難させたことであると聞き、今後の消防団活動に大いに参りになったものと思われました。



10mから50mモリタの梯子車モリタの技術と設備は20種類以上の消防防災、総ての車を造ります。完全水冷ラジエータ式、強制空冷式シパウラ小型消防ポンプSFシリーズ、TFシリーズ独特の2本立で総ての機能を具えております。消防・防災用品全般、火の見櫓撤去・移設、ホスポール建立

茨城県代理店
(有) 鈴 機
石岡市国府5-2-25
TEL.0299(22)3010 FAX.0299(22)5846

OKIの通信機
消防用無線機
指令台、電話機
交換機、FAX、パソコン
自動火災報知設備

水戸通信工業株式会社
本 社 茨城県水戸市新莊2丁目7番33号 電話(029)225-2215代(〒310-0036)
南 営 業 所 茨城県水戸市菅原町1227番地の2 電話(029)244-0103代(〒310-0852)
土 浦 営 業 所 茨城県土浦市上高津新町5番70号 電話(029)822-1001代(〒300-0819)
取 手 営 業 所 茨城県取手市取手1丁目6番6号 電話(0297)73-1256代(〒302-0004)

Panasonic
自動火災報知設備
非常電源設備
自家発電設備
CVCF設備
FAX、パソコン

パナソニック株式会社 特機商品代理店
株式会社入江電機工業所
本 社 茨城県水戸市大工町2丁目3番23号 TEL.029-224-4614(代表) FAX.029-224-4613
千波営業所 茨城県水戸市千波町海道付2027番地 TEL.029-241-3636(代表) FAX.029-244-0540
土浦営業所 茨城県土浦市並木1丁目2番20号 TEL.029-821-8498(代表) FAX.029-822-6575

トーハツ 小型ポンプ
充実のVシリーズ

V75ESからV10Fまで豊富な機種でお客様のご要望にお応えいたします。

消防ポンプ自動車 消防用ホース
消火器 消防服装
消防資機材用品一式

茨城県代理店
トキワ産業株式会社
水戸市東原3-6-24
TEL.029(224)3324代
FAX.029(224)3360

自治体消防制度60周年記念茨城県消防ポンプ操法競技大会中央大会が盛大に開催される

ポンプ車の部で常総市石下消防団が優勝 小型ポンプの部でかすみがうら市消防団が優勝



消防ポンプ操法大会中央大会における見事な操法

今年度の消防ポンプ操法大会は、自治体消防制度六十周年を記念する茨城県の三事業業の一つとして、県内七地区で行う地区大会で優勝した十一月十五日消防学校において実施されました。

当日は大会にさむらい秋晴れで、潮を持していた地区大会の優勝チームが競々と会場入りし、開会式は最近の政治情勢を反映し多くの国会議員が出席する中、団長及び選手同士も早も火花を散らしている様子が窺われました。

自治体消防制度60周年記念茨城県消防ポンプ操法競技大会中央大会結果(団体)

順位	ポンプ車操法の部			小型ポンプ操法の部		
	消防団名	総得点	操作所要時間 1線延長 2線延長	消防団名	総得点	操 作 所 要 時 間
1	常総市石下	357	53 66	かすみがうら市	154.5	47
2	取手市	340.5	51 61	取手市	154	47
3	つくば市	305	50 63	常陸大宮市	149	49
4	笠間市	304	61 67	神栖市	139.5	46
5	潮来市	301	55 70			
6	常陸大宮市	299.5	53 65			
7	石岡市	285.5	52 66			

自治体消防制度60周年記念茨城県消防ポンプ操法競技大会中央大会結果(個人)

優秀選手賞	ポンプ車操法の部		小型ポンプ操法の部	
	消防団名	選手名	消防団名	選手名
指揮者	常総市石下	なまひら 生井 祐一	取手市	ふるかや 古萱 勝行
1番員	取手市	つがゆ 津川 啓志	かすみがうら市	やまうち 山内 誠
2番員	常総市石下	なかむら 中川 善文	かすみがうら市	なかむら 中根 隆平
3番員	常総市石下	やすだ 安田 和伸	常陸大宮市	まこと 大森 正人
4番員	常総市石下	やまぐち 山口 幸男		

第二十一回 全国消防操法大会

大子町消防団小型ポンプにおいて 優良賞に輝く 個人でも三番員の木澤選手が 優秀選手賞を獲得

今年度の標記大会が十月十二日に東京ビッグサイトで開催されました。

本大会は、自治体消防制度六十周年記念大会を称して実施したことから、会場も例年の横浜訓練センターから変更し、前日には厚生総理大臣や消防応援団として、大宮市・菅原文太・水町清子・田中

邦衛・徳光和夫さん等の出席をいただき、激突流会が行われました。

また、今回は初めての企画として隣接する厚労ホールにおいて「地域総合防災力展」を同時開催し消防関係者以外への参加を募りました。

これらのことから観衆は約三千五百人となり、本県代表

大子町消防団の皆さん誠におめでとうございました。

そして、長い間苦しい苦行でした。

消防協会としても、長い間

で小型ポンプの部に出場の大子町消防団は、この観衆にひるむことなく二番目見事な操法を披露し、最終見事なトップを維持し、もしかして念願の優勝を期待させる出来ばえでしたが、結果的には第六位・優良賞(総合得点八十五・五五、タイム四十四秒三)でした。



全国消防操法大会において見事な操法を披露する大子町消防団

選手の皆様を支えてこられた、ご家族・地域・指導者・町当局等多くの方々へ深く感謝申し上げます。

第二回の茨城県女性消防団 結成促進大会を開催

講師として日本消防協会の 秋本理事長と赤羽消防団の 小澤分団長が来水

当協会では、男女共同参画型社会の形成を受け、女性の特性を活かした独居老人宅の住宅防火診断や、救命講習等で大きな成果を挙げている女性消防団を県内全域に拡大し、茨城県の消防団業務の充実強化を図るとともに、毎年減少している消防団確保対策に資することとして、「概ね三年度程度で県内全市町村に女性消防団を結成すること」を、

一昨年の総会(理事会・評議員会)で決議しました。

これを受けて、女性消防団の活動事例等を紹介しながら、女性消防団の結成を促進し、併せて県内の女性消防団員の交流を促進するため、昨年に引き続き本大会を十月二十七日に県庁九階の講堂で実施しました。

大会は、最初に日本消防協会の秋本理事長に「これまでの消防と題して」の講演をいただき、秋本理事長は、今から十三年前に発生した阪神淡路大震災の直後に消防団長官に就任され、緊急消防援助隊の結成等々までない消防の発展を構築されたほか、日本消防協会理事長就任後の消防国際会議の開催や、菅原文太さんや徳光和夫さん等の芸能人による消防団応援の結成等に尽力された方で、これまでの経験から広範囲なご講演をいただき、今後の消防団活動に大いに参考になったものと思われました。

この演劇は、自分が火災など危険な事にある状況を想定するお話しなど、これまでの幼児教育で行ってきた方法を大胆に取り入れ、実際に役立つ方法を具体的に知りやすく発表され、他の女性消防団員にとって今後の予防活動に大いに参考になったものと思われました。

最後に「女性の元気がこのまちの元氣(副題)女性消防団の活動事例と結成効果」と題してのパネルディスカッション、勿論コーディネーターは本県女性消防団の相談役で東京都赤羽消防団団本部団長の小澤浩子さんとパネラーには、団長歴十二年女性消防団結成八年の経験豊かな河内町消防団の平川団長、団歴四十七年で団長歴一年・女性消防団結成一年の那珂市消防団の海野団長、団歴五年の牛久市消防団の神野喜代子班長、団歴三年の常陸大子町消防団の会沢みつる班長、同じく団歴三年のひたちなか市消防団の田村静子団員を配し、約一時間行われ、女性消防団の活動や体験・住民の反応、女性消防団の結成効果や苦言など、小澤さんの巧みなリードでお話しが聞け、アツという間の一時間で

「危険な事がある状況を想定するお話しなど、これまでの幼児教育で行ってきた方法を大胆に取り入れ、実際に役立つ方法を具体的に知りやすく発表され、他の女性消防団員にとって今後の予防活動に大いに参考になったものと思われました。」

今年度は、現在の自治体消防制度が昭和二十三年に確立されて十周年になることから、本県の記念事業として三事業を計画しました。

まず最初に十月二日に記念の消防大会を実施し、特別表彰として消防団及び本部が任意に優良消防団・団員を人数規模に応じて一人から三人を推薦し、表彰し、財政が厳しくても、今後とも手間暇惜まず(今年度某職員は年休や代休を一日も取得してません)工夫して皆さんに喜ばれるような事業を実施してまいります。

「危険な事がある状況を想定するお話しなど、これまでの幼児教育で行ってきた方法を大胆に取り入れ、実際に役立つ方法を具体的に知りやすく発表され、他の女性消防団員にとって今後の予防活動に大いに参考になったものと思われました。」

編集後記

出場資格地区大会優勝団でしたので、全チームにカップを贈呈することにしました。

第零弾が記念誌です。現在編集作業をしており二月頃には配付する予定で準備しております。

記念誌は機会ながら有償となつてしまいましたが、皆様のご理解と協力で、約八百部の購入申し込みがありましたので、予定通り低価格で販売できます。

財政が厳しくても、今後とも手間暇惜まず(今年度某職員は年休や代休を一日も取得してません)工夫して皆さんに喜ばれるような事業を実施してまいります。



小澤さんのリードで様々な話が聞けたパネルディスカッション